

若者コミュニケーション論としてのディスコ空間

佐々木 花 江

人間社会形成に重要な役割を果たすコミュニケーションにメディアが及ぼす影響は今日強まっており、コミュニケーション能力が低下したと言われる若者たちは特にこのメディア状況に大きな影響を受けて人間形成を行っている。彼らのコミュニケーション状況の今日を知りこれからを占うために、若者と深い関わりのあるディスコ空間というメディアの実態を探る。

ディスコ空間は1960年代に欧米から輸入されて以来日本でも徐々に浸透し、現在ではすっかり定着した感がある。そして、時代を超えて一貫した特徴として、最新の外来文化・風俗をとり入れ、それを体感できるメディアであること、そのような最新の流行を追うことが重要な要件であるために一般にその内容や場所などの変化が激しく、寿命が短いこと、外来文化を真似して最新の流行を自分のファッションやライフスタイルにまで取り入れようとする傾向の強い若者が多く集まること、などが挙げられる。

このディスコ空間は一般に良くないイメージを持つ人が多い。そして評論家達は、ディスコ空間を祭りの現代形だと捉えている。細かく言えば、

ディスコ空間は、若者達が青春の喪失感に駆り立てられて集まる場所である、とか、性の社交場であるとか、人生を享楽欲に任せて生きる人達の不安と恐怖をぶつける空間だとかいった捉え方があり、また純粋に踊る楽しみに浸れる空間だという見方もできる。また大都市に特有であったり、外国人に象徴されたりもする。

ディスコと一口に言ってもその中身はさまざまだが、内部における人と人とのコミュニケーションは、共通して「観る－観られる」、「出会う」、「いちやつく」、「一体感を得る」の4要素に分けられると思われる。また、嗜好・年齢層・国籍その他からある傾向を持った棲み分けがみられる。さらに、空間を彩るモノとして、日本人の多い空間の場合、煙草の存在が目立つ。また、麻薬の類が確認されることもあり、そういった犯罪の空間になるめんもある。

このような諸様相を呈するディスコ空間において若者は時を費やし、自らの「ひとづくり」を行っている。このことが、どのような社会形成に関わるのか、これらの若者がどのようにこれからの社会を支えていく存在になるのか、注目したい。

微地形単位で見たカンアオイの分布を規定する谷の物質移動

—加住北丘陵、切欠地区における検討—

佐藤 寛 子

加住丘陵切欠地区におけるカントウカンアオイの分布を調べ、その分布を規定する要因を、微地形スケールでの物質移動と対応させて、考察した。

本研究により分かったことは、カントウカンアオイは微地形に対応して分布しており、その拡大過程には、地表面の物質の安定性、移動性が大きく影響を及ぼしていることである。

調査地内のカントウカンアオイの分布を個体ごとに調べたところ、その分布には粗密があり、葉の枚数・大きさとの関係から、次の三つのパターンにタイプ分けされた。

- ①大きな個体が、粗に分布しているところ。
- ②小さな個体が密に分布しているところ。
- ③大きな個体と小さな個体とが混じって、粗に分布しているところ。

カンアオイの分布にこのように違いを及ぼす要因としては、表層の物質移動が考えられ、物質移動がなく安定しているところでは、カンアオイは地下茎を太くのばし、栄養による分枝をしながら、大きな個体に成長すること。

また、谷壁等の物質移動の激しいところでは、カンアオイごとの個体の葉の枚数は少なく、ほと